

かなたの光

明石市立錦城中学校 第79回生学年通信

第45号

2024(令和6)年
7月17日(水)

一学期が終わろうとしています。その2。

三者懇談も今日が最終日となりました。多くの方が担任の先生と、お家の人を交えてのお話が終わったと思います。お疲れ様でした。いかがだったでしょうか。ほとんどの中学生にとって、三者懇談はあまり楽しい行事ではないと思いますが…。

学習面のお話が多かったですかね。夏休みは、普段よりは時間的にゆとりがありますか？今まで学習した内容をしっかり復習したり、苦手科目の克服に時間を割いたり、してください。

その一方で…

せっかくの夏休みなので、普段できないことにも挑戦してほしいと思います。挑戦と言ったら、大げさかも知れませんが、「時間のある夏休みに、普段は忙しくてできない何かをやる」そんな感じでとらえてほしいかな。

『明石公園に早朝からでかけて、カブトムシを捕まえに行く。』

『自転車で明石市の東の端から西の端まで行ってみる。』

『ジェノラインに乗って、淡路島へ行ってみる。』

などなど…

お家の人に怒られるかも知れませんが、

『『鬼滅の刃』全23巻を読破する』なんてのもいいのではないのでしょうか？

最近『コスバ』、『タイパ』という言葉をよく耳にします。コスバはコスト(費用)に対するパフォーマンス(効果)。例えば安くおいしいものが食べられれば、『コスバがいい』と表現します。逆に高い金額を払って商品を購入したのに、その商品がイマイチだったりすると『コスバが悪い』というわけです。

で、タイパはコストがタイム(時間)に変わったものです。短い時間で、大きな成果が得られると『タイパがいい』となるわけです。「試験勉強の時間が短かったのに、テストの点数が良かった。」なんていうのは、典型的な例です。寿司職人さんは、ご飯の炊き方を覚えるのに3年、お寿司の握り方を覚えるのに8年かかると言われています。それぐらい修業しないと一人前と言われないそうです。こういうのは『タイパが悪い』なんて言われるようです。

最近には特にこの『タイパが悪い』という事は、毛嫌いされる傾向にあるようです。何でも効率よく、素早

く理解できたり、習得できるようになる事がいいようで、忙しい現代人にとって、時間をかけるという事はとても良くないことのようにです。「タイパが悪い」は駄目なんだそうです。

でも、私自身振り返ってみて、時間をかけてやったことって、けっこう身につけているんですね。記憶にもよく残っている。一つの事をやり終えるのに、時間がかかっているという事は、無駄な行動が多かったり、失敗した事が多かったりしてるんですね。だからすごく印象に残っていて、次に同じ事をやる時に、それが役に立っていたりします。スムーズにうまくいったことは、あまり覚えてなくて、たくさん失敗した事なんかは、けっこうよく覚えていて、前と同じ失敗はしないぞって感じで、用心深くなって、慎重になる場面とかわかるんです。この辺は適当でいいぞ、みたいな場面もわかったりします。だから必ずしも『タイパが悪い』は悪くないような気がするんですが…。

話が長くなりました。夏休みに話を戻します。宿題がたくさんあって、たいへんですが、夏休みは是非『タイパが悪い』経験をしてほしいですね。時間をかけて何かしてほしいですね。人から見たら『タイパが悪い』と、思われるような事でも。ゆっくり時間をかけてこそ、意味があることもあります。1回りの中学2年生の夏休み。大切な時間にしてください。貴重な体験をしてほしいです。

